

令和元年台風第19号の被災を踏まえた河川堤防に関する技術検討会

進め方

【第1回】 令和2年2月14日（金）

○令和元年台風第19号における河川堤防の被災

○検討会のポイント（論点整理）

【第2回】 令和2年3月 予定

○危機管理としての緊急的な河川堤防の強化方策案

【第3回】 令和2年5月 予定

○中長期的課題の整理

○とりまとめ

気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会

(社会資本整備審議会 河川分科会)
〔10/18諮問, 11/7設置, 第1回: 11/22, 第2回: 1/17〕

【気候変動を踏まえた計画の見直し】

- 気候変動に伴う降雨量の増加や海面水位の上昇を踏まえた、流域全体で備える水災害対策を検討

【今年の災害の課題への対応】

- 今年の災害で明らかになった課題に関して検討する有識者会議や関係機関との実務者会議を実施し、必要に応じて小委員会において包括的に検討

気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会〔H30.4設置, R1.10提言〕

- 気候変動による降雨量の増加等の外力の評価

気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会〔第1回:10/2, 第2回:12/9, 第3回:1/24〕

- 海面水位の上昇等に関する技術的評価及びそれを踏まえた適応策の検討

気候変動を踏まえた都市浸水対策に関する検討会〔第1回:12/18〕

- 下水道の雨水計画における、気候変動による降雨量の増加等の外力の評価等

気候変動を踏まえた砂防技術検討会

〔現地調査:12/9, 第1回:1/8〕

- 土砂量等の外力に関する技術的評価

令和元年台風第19号の被災を踏まえた河川堤防に関する技術検討会〔第1回:2/14〕

- 各堤防調査委員会での報告を受け、今後の堤防強化の方向性の検討

破堤の要因分析や復旧方法検討のための会議

阿武隈川堤防調査委員会〔第1回:10/16, 第2回:11/7, 第3回:12/2〕
鳴瀬川堤防調査委員会〔第1回:10/16, 第2回:11/7, 第3回:12/3〕
荒川水系越辺川・都幾川堤防調査委員会

〔第1回:10/17, 第2回:11/17, 第3回:12/2〕

那珂川・久慈川堤防調査委員会〔第1回:10/18, 第2回:11/17, 第3回:12/2〕
千曲川堤防調査委員会〔第1回:10/15, 第2回:11/13, 第3回:12/4〕
宮城県の有識者会議〔第1回:11/8〕

既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議

(内閣官房・厚労省・農水省・経産省(経産局・エネ庁)・国土省(水局・気象庁))〔第1回:11/26, 第2回:12/12〕

- 連携してダムの事前の放流を推進

ダムの洪水調節に関する検討会〔第1回:12/24, 第2回:2/6〕

- 異常洪水時防災操作に移行した6ダムの情報提供等の検証
- ダムのより効率的な操作方法等の検討

河川・気象情報の改善に関する検証チーム(水局・気象庁)〔第1回:11/14〕

- 河川の氾濫発生情報の発表のあり方、大雨特別警報解除後の洪水への注意喚起

中小河川の水害リスク評価に関する技術検討会〔第1回:1/7〕

- 洪水予報河川、水位周知河川以外の河川における浸水が想定される区域の設定手法の検討

水災害対策とまちづくりの連携のあり方検討会(都市局・水局・住宅局)〔第1回:1/8〕

- 水災害リスクを踏まえた居住誘導

■社会資本整備審議会による検討

■有識者による検討会等

■関係省庁による調整会議

土砂災害防止対策小委員会(社会資本整備審議会 河川分科会)〔10/18諮問, 12/20設置, 第1回:12/24, 第2回:1/29〕

- 気候変動による集中豪雨の多発化も踏まえ、土砂災害に対する警戒避難の実効性を向上させるための方策の検討

・各河川における堤防決壊等の要因を分析し、今後の危機管理として堤防強化の方向性を検討

【堤防の決壊等】

〈国管理河川〉12箇所

■ 3地整5堤防調査委員会

- ・阿武隈川上流
- ・鳴瀬川水系(吉田川)
- ・荒川水系(都幾川、越辺川)
- ・那珂川久慈川
- ・千曲川

〈県管理河川〉128箇所

■ 国総研による現地調査

■ 宮城県技術検討会

- ・阿武隈川水系新川、内川、五福谷川

■ 各県の被災状況

- 〈宮城県〉・阿武隈川水系・鳴瀬川水系
・砂押川水系・北上川水系
- 〈福島県〉・阿武隈川水系・阿賀野川水系
・三滝川水系・真野川水系・宇田川水系
・小泉川水系・新田川水系・太田川水系
・小高川水系・夏井川水系・鮫川水系
- 〈茨城県〉・那珂川水系・久慈川水系
- 〈栃木県〉・那珂川水系・利根川水系
- 〈埼玉県〉・荒川水系
- 〈新潟県〉・関川水系・信濃川水系
- 〈長野県〉・信濃川水系

〔【国】堤防調査委員会の結果〕

- ・12箇所全ての決壊の主要因は「越水」
(一部、住宅地から河川側への越水あり)
- ・一部の決壊箇所で、浸透や侵食の影響も
否定できない箇所あり
- ・復旧にあたっては原形復旧に加え、天端
舗装や必要に応じて裏法尻補強を実施

〔主な付帯意見〕

- ・今後、危機管理的な観点で実施可能な
種々の対策の検討が必要
- ・危機管理型ハード対策については、より
効果的な対策を引き続き検討すること

〔【県】の決壊要因等〕(※調査分析中)

- ・多くの箇所で越水が発生しており、被災要
因の多くを占めるものと考えられる

決壊箇所の河川の状況(※調査分析中)

- ・決壊箇所全140箇所について、背水区間
や水衝部の影響が多い傾向が見られる

【堤防強化の方向性(案)】

- 有識者からなる検討会を設置し、台風第19号での被災
実態等を踏まえ、
- ・先行的に被災河川の復旧
を念頭に検討を進めるとと
もに、
- ・令和2年夏までを目途に、
危機管理としての緊急的な
堤防強化の方策を取りまと
める (短期的)

- 更なる堤防強化に向け、技
術的検討を推進
(中長期的)

洪水時の水位を
下げる対策を基本
としつつ